

2022年度自己点検・評価結果にもとづく 学校関係者評価報告書

2023年2月

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校

学校関係者評価委員会

学校が実施した自己点検・評価結果の各項目を根拠資料とともに説明し、評価項目ごとの自己点検・評価結果の妥当性について検証すると共に、各委員から意見を聴取した。なお、自己点検・評価の評価項目と様式は、静岡県専修学校各種学校教育振興会自己点検・評価委員会発行『自己点検・評価ガイドライン』に掲載されているものを一部改編して使用した。

【学校関係者評価委員会 構成員】

- ① 在学生の父母等保証人・・・・袴田幹子 氏
- ② 関連実習施設の関係者・・・・社会福祉法人小羊学園 在宅支援センターぱびるす施設長 紅谷 純 氏
- ③ 高等学校関係者・・・・聖隷クリストファー高校校長 上村敏正 氏
- ④ 大学関係者・・・・聖隷クリストファー大学社会福祉学部長 佐藤順子 氏

【実施日（意見聴取日）】

2023年2月21日

【評価に用いた資料】

- ・ 専門学校の自己評価および学校関係者評価について
- ・ 2022年度 聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 自己点検・評価結果
- ・ 聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 教育情報の公表
- ・ 2022年度 聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 事業計画
- ・ 2022年度 聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 履修要項
- ・ 2022年度 聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 学生生活の手引き(CAMPUS LIFE)
- ・ 聖隷クリストファー大学・聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 学報2022年7月号、12月号
- ・ 聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 2023年度入学案内/募集要項

1. 教育理念・目標・人材養成

評価項目	適切……………4 ほぼ適切………3 やや不適切……2 不適切……………1	自己点検・評価による現状の問題点 および改善のための方策	学校関係者の評価とコメント等
① 学校の理念・目的・人材養成像は定められているか	④ 3 2 1	〔現状の問題点〕 問題点は特にないが、更に教員間の意識共有や、学生への丁寧な周知の必要性がある。	自己点検・評価結果の妥当性が確認できました。
② 教育目標は卒業時の到達が読みとれるものになっているか	④ 3 2 1	①②：履修要項に記載されており卒業時の到達度は、履修要項の「卒業時認定にかかる基本方針」に示されている。	
③ 教育理念並びに教育目標は定期的に見直されているか	④ 3 2 1	③：教員会での検討を行い、求められる介護福祉士像や、社会背景、時節にあったものとなっているか見直しを年2回行っている。	
④ 教育理念並びに教育目標を教職員・学生に周知しているか	④ 3 2 1	④：専門学校教職員会議で教職員に周知を図っている。学生はガイダンス（春・秋の Semester 開始時）や授業内、礼拝等で、具体的にわかりやすく話すなど工夫し周知を徹底している。特に今年度は礼拝での教員の話の中で、かみ砕くことや、繰り返し説明する工夫を行っている。	

2. 教育活動

評価項目	適切……4 ほぼ適切……3 やや不適切……2 不適切……1	自己点検・評価による現状の問題点 および改善のための方策	学校関係者の評価とコメント等
① カリキュラムは教育目標が反映されているか	④ 3 2 1	<p>〔現状の問題点〕 問題点は特になし。</p> <p>2021年度より、社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則（以下、「指定規則」という）の一部改正に伴い教育課程を改定した。成績評価は、履修規程やシラバスに従って行い、全体的な視点で授業科目ごとのGP（Grade Point）も確認し、授業の点検・評価をしている。</p> <p>①：「学則第3条 キリスト教精神による生命の尊厳と隣人愛に基づき人格を陶冶すると共に、介護福祉に必要な専門的知識、技術及び態度と愛の精神が統合された有為な職業人を育成して、社会の福祉に寄与することを目的とする。」を実現するため指定規則に則って、介護福祉士養成に必要な科目を配置している。カリキュラムを静岡県健康福祉部福祉長寿局介護保険課に届け出ている。</p> <p>また、キリスト教精神による生命の尊厳と隣人愛に基づき人格を陶冶するために、「聖隷の理念と介護福祉教育」を開講している。加えて、毎朝礼拝の時間を設けている。</p> <p>②：カリキュラムは、指定規則に指定された内容を教育するための科目を配置しており、指定規則の改正に合わせて見直しを行うこととなる。各科目の内容については、シラバス作</p>	自己点検・評価結果の妥当性が確認できました。
② 定期的なカリキュラムの見直しが行われているか	④ 3 2 1		
③ テキストや教材は適切なものを選定しているか	④ 3 2 1		
④ シラバスが作成され学生に配布されているか	④ 3 2 1		

評価項目	適切……4 ほぼ適切……3 やや不適切……2 不適切……1	自己点検・評価による現状の問題点 および改善のための方策	学校関係者の評価とコメント等
⑤ 授業の点検・評価が適切に実施されているか	④ 3 2 1	成時期に各教員が見直し、教育改善を進めている。2021年度より、指定規則の一部改正に伴いカリキュラムを改定し、2022年度は滞りなく進めている。	
⑥ 資格試験の合格率は	④ 3 2 1	③：テキストはシラバス見直し時に各教員が最新のテキストを提示している。新版の発行等については、図書販売業者の確認も行われ、教授内容に合わせて選択を行っている。	
⑦ 資格試験不合格者の対策は	④ 3 2 1	④：シラバスは、毎年作成方針を決めて、方針に沿って各教員が見直しの上作成している。	
⑧ 評価は適切な方法で行われているか	④ 3 2 1	⑤：成績評価は、履修規程やシラバスに沿って行っている。また、履修状況、科目別成績評価状況（GP）を教職員会で確認し、学生の学修状況を確認し、組織的な見直しを行っている。教員レベルでは、シラバス作成に当たって振り返りを行っている。	
⑨ 目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	④ 3 2 1	⑥：介護福祉士国家試験の現役合格率は、2020年度全国介護福祉士養成施設の平均72.9%に対して本校は95.8%（23名/24名）、2021年度同65.3%に対して、88.9%（16名/18名）であり、不合格者はいるものの、全国平均に比べて高い合格率を維持している。	

評価項目	適切……………4 ほぼ適切………3 やや不適切……2 不適切……………1	自己点検・評価による現状の問題点 および改善のための方策	学校関係者の評価とコメント等
⑩ 進級、卒業の判定審査は適切に実施されているか	④ 3 2 1	<p>施している。</p> <p>⑨：目標に到達しない学生に対し、講義系の科目では追加課題を出すなどの個別対応をしている。演習系の科目では、教員と共に補習を行っている。但し、実習については到達できない場合は、再履修など資格取得に向け厳格な評価をしている。</p> <p>⑩：卒業判定は卒業要件に対する単位修得状況を確認することで、客観的な判定を行っている。</p>	

3. 学生の受け入れ

評価項目	適切……4 ほぼ適切……3 やや不適切……2 不適切……1	自己点検・評価による現状の問題点 および改善のための方策	学校関係者の評価とコメント等
① 学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法・時期は適切か	4 ③ 2 1	<p>〔現状の問題点〕</p> <p>2018年度以降の入学者は21名、27名、19名、28名と推移しており、2022年度も22名と入学定員40名を満たせていない。</p> <p>①④：コロナウイルス感染症の影響も収まり、オープンキャンパス等募集行事の開催、ガイダンス（高校内、会場）への参加、ダイレクトメールの発送など概ね当初予定通り実施ができたものの、接触者数は以前と同程度にとどまった。</p> <p>⑥：2018年度から5年間の入試結果は別表の通り。平均充足率は59.0%である。</p>	<p>自己点検・評価結果の妥当性が確認できました。</p> <p>介護は汚い、賃金が安い、というイメージが先行し、高校生を支える保護者や高校教員から敬遠されている現状がある。小学生や中学生の早いうちから授業などを通して福祉の世界を知ってもらうこと、また実際の職場体験をしてもらうことで、高校生になって進路を決める際の選択肢として介護を身近に感じてもらえるのではないかと。基本給の安さが強調されがちだが、夜勤手当や資格手当は他業種に比べてむしろ高いこと、福利厚生も充実した施設が多いこと、数年続ければケアマネジャー資格取得につながるなどキャリアアップも望めることなど、介護職のよい点をアピールしていくとよいのではないかと。留学生は全体数が増えるなかで介護を選んでももらえるよう、資格を取れば日本で長く働き暮らせるようになること、そのための国家試験合格率が本校は高いこと、支援が手厚いことをアピールしていくとよいのではないかと。</p>
② 入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	④ 3 2 1	<p>〔改善のための方策〕</p> <p>オープンキャンパスでは、個別相談の持ち方を見直したほか、オンラインで福祉施設と結び、卒業生の活躍を紹介した。2022年夏にはコロナ禍で開催できなかった「福祉のお仕事体験」を再開した。</p>	
③ 募集要項の内容は適切か	④ 3 2 1	<p>学校の特長がまだ十分に発信できていない点が課題であり、ホームページ、SNS、ダイレクトメールによる情報発信のほか、入学実</p>	
④ 学校説明会、体験入学の時期、内容は適切か	4 ③ 2 1		

評価項目	適切………4 ほぼ適切………3 やや不適切………2 不適切………1	自己点検・評価による現状の問題点 および改善のための方策	学校関係者の評価とコメント等
⑤ 入学者選抜の時期、方針、方法は適切か	④ 3 2 1	績がある高校を中心とした訪問に注力していく。また外国人留学生獲得のため、県内の主要な日本語学校を訪問し、就職まで見据えた奨学金制度の紹介を継続して行う。	〔回答〕 小学生や中学生の世代へのアピールはぜひ取り組んでいきたい。オープンキャンパスに来る生徒は現状は少ないがほぼ入学につながる。介護職のいい点を広く発信して、介護に関心を持ち、オープンキャンパスに来てくれる生徒数を増やしたい。本校の4つの特徴（大学レベルの教育／きめ細やかな学生支援／多様な進路と豊富な就職先／充実した経済的サポート）もアピールしていきたい。 在学生の満足度が出身校の教員や生徒たちに伝わるので、在学生への手厚いサポートや課外活動の充実にも取り組み、在学生在が後輩たちに勧めたい学校となることも意識していきたい。
⑥ 志願者状況、定員充足率はどうか	4 3 ② 1		
⑦ 中途退学の理由・実状を適切に把握しているか	④ 3 2 1		

⑤ : 別表

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数 (人)	21	29	20	29	22
合格者数 (人)	21	28	20	29	22
入学者数 (人)	21	27	19	28	22
充足率 (%)	52.5	67.5	50.0	70.0	55.0

4. 教員組織

評価項目	適切……………4 ほぼ適切………3 やや不適切……2 不適切……………1	自己点検・評価による現状の問題点 および改善のための方策	学校関係者の評価とコメント等
① 専任教員は設置基準を満たしているか	④ 3 2 1	〔現状の問題点〕 教員の担当科目時間数について過密な時間割になっている時期がある。 本年度は8名の留学生が入学しており、留学生に対する日本語指導や国試対策支援、到達目標に達しない学生への学修支援など教員の業務が増えている。	自己点検・評価結果の妥当性が確認できました。
② 専任教員1人あたりの担当科目時間数は適切か	4 ③ 2 1		
③ 教職員の業務分掌は明確になっているか	④ 3 2 1		
④ 教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	④ 3 2 1		
⑤ 教職員の資質向上のためのシステムは適切に構築されているか	④ 3 2 1		
⑥ 職員は業務が滞りなく遂行できる人数を雇用しているか	4 ③ 2 1		

5. 学生支援

評価項目	適切……4 ほぼ適切……3 やや不適切…2 不適切……1	自己点検・評価による現状の問題点 および改善のための方策	学校関係者の評価とコメント等
① 奨学金等、経済的支援は整備されているか	④ 3 2 1	【現状の問題点】 心の健康問題を抱える学生を早期に把握して支援するにあたり、新入生はスクリーニングテスト（UPI調査）を実施していたが、2年次生は対応できていなかった。	自己点検・評価結果の妥当性が確認できました。
② 学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか	④ 3 2 1	【改善のための方策】 ②：2年次生に簡易スクリーニング調査（K6調査）を実施し、ハイリスクの学生は学生相談室に繋げ、支援することとした。	
③ 各学校行事について、適切な事後反省を行っているか	④ 3 2 1	【結果検証】 ②：設定した基準により学生をカウンセラーがアセスメントを行った。結果的に専門学校生は1名も要フォローには至らなかったが、アセスメントを行ったことにより、該当の学生の状況を把握することができ、その後の指導・対応に繋がった。一定の効果はあったとの判断から、次年度以降も簡易スクリーニング調査（K6調査）は継続して実施予定である。	
④ 防犯・防災訓練の実施等、不法侵入・災害に対する整備は万全か	4 ③ 2 1		
⑤ 進路活動に関する支援が整備され、機能しているか	④ 3 2 1		
⑥ 新たな求人開拓の努力をしているか	④ 3 2 1		

6. 施設・設備

評価項目	適切………4 ほぼ適切………3 やや不適切………2 不適切………1	自己点検・評価による現状の問題点 および改善のための方策	学校関係者の評価とコメント等
① 講義室は学習を行うのに十分な面積を有しているか	④ 3 2 1	<p>〔現状の問題点〕 問題点は特になし。</p>	自己点検・評価結果の妥当性が確認できました。
② 実習室は実習を行うのに十分な面積を有しているか	④ 3 2 1	①②③④⑤⑧：専門学校棟に普通教室が2室（各144.0m ² ）、学生が自学自習できる実習教育室（36.0m ² ）を設けている。大学2号館の介護実習室（115.4m ² ）は大学社会福祉学部と共用している。その他の施設設備も大学と共用しており十分に整っている。また、教務事務センターで教室の使用状況を一元管理している。教室等の修繕等は財務部施設課が対応しており、不具合等が生じれば都度対応している。	
③ 実習設備は整備されているか	④ 3 2 1	教室には教員用パソコン、プロジェクタ、DVDプレーヤーなどの機器が整備されており、授業に活用されている。実習教育室にはパソコンとプリンタが1台ずつ常設しており、学生が自由に使用することができる。プリンタは、学生の持込パソコンからWi-Fiで直接印刷できるように2022年度内に設定の追加を予定している。教室、実習教育室ではWi-Fiが利用できる。情報処理の授業など全員がパソコンを使用する際には、大学の機器を共用して対応ができています。	
④ 講義室・実習室の管理は適切に行われているか	④ 3 2 1	⑥：図書館には、介護関連の図書が9,354冊あり、教員と学生からの希望を含めて選定リストを図書館事務センターが作成し、図書館運営会議に諮り選定している。学生は、貸出パソコンを借りて学習や、ラーニングcommonsなどで自主学習をしている。	
⑤ 学生が自学自習できる教室を有しているか	④ 3 2 1	⑦：健康管理センターが設置されており、看護師資格を保有している専門の職員2名が常駐している。	
⑥ 図書室は適切に整備されているか	④ 3 2 1		
⑦ 保健室は適切に整備されているか	④ 3 2 1		

評価項目	適切……………4 ほぼ適切………3 やや不適切…2 不適切……………1	自己点検・評価による現状の問題点 および改善のための方策	学校関係者の評価とコメント等
⑧ 教育用機器備品は整備されており活用されているか	④ 3 2 1	⑨：教員室は専門学校棟の1階に置かれており、常時学生が立ち寄ることができるようになっている。教員室には各教員用に机・イス・パソコンが配備されている。管理は教員が行っている。夜間は機械警備がセットされ室内のセキュリティーを確保している。	
⑨ 教員室の管理は適切に行われているか	④ 3 2 1	⑩：事務室は、スチューデントプラザに学生支援のための事務部門（センター）が集約されている。教務事務センター、学生サービスセンター、キャリア支援センター、グローバル教育推進センター、ICTセンターなど専門性をもって学生支援にあたっている。管理部門として総務部が置かれている。	
⑩ 事務室の管理は適切に行われているか	④ 3 2 1		

7. 管理・運営

評価項目	適切……4 ほぼ適切……3 やや不適切……2 不適切……1	自己点検・評価による現状の問題点 および改善のための方策	学校関係者の評価とコメント等
① 理事会・評議員会は適時適切に開催され、機能しているか	④ 3 2 1	<p>〔現状の問題点〕 財務分析比率について、入学者の未充足により専門学校単独の帰属収支差額がマイナスである点が問題である。</p> <p>〔改善のための方策〕 学生募集力を強化し入学者を充足させるために2023年度は以下の点を中心に募集広報を進めていく。 ・実績のある高校を中心に教職員による訪問を増やし、介護福祉の魅力、卒業生の活躍を伝える。 ・ホームページ、SNSによる情報発信は、卒業生動画等内容を更に充実させ、オープンキャンパス、ガイダンスへの参加者増を図る。 ・就職先、実習先の施設と連携した募集広報活動（施設見学会、オープンキャンパスでの中継など）を継続・発展させる。 ・外国人留学生（在学生、卒業生）の状況を日本語学校訪問時及びホームページ等で紹介する。</p>	自己点検・評価結果の妥当性が確認できました。
② 理事会、評議員会の議事録は適切に作成、管理されているか	④ 3 2 1		
③ 就業規則などの諸規程は適切に整備されているか	④ 3 2 1		
④ 就業規則などの諸規程・学則等が定期的に見直されているか	④ 3 2 1		
⑤ 組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	④ 3 2 1		
⑥ 消防計画、学校安全計画等は適切に整備されているか	④ 3 2 1		
⑦ 個人情報保護法を遵守しているか	④ 3 2 1		
⑧ ハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか	④ 3 2 1		
⑨ 財務分析比率は適切な数字になっているか	4 3 ② 1		
⑩ 学校の財務情報を公開する適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1		